

取材日：2014年8月21日



糖尿病

駿東田方医療圏、  
熱海伊東医療圏

## かかりつけ医の判断が生きる糖尿病支援入院。 裾野を広げ、地域の糖尿病医療の質を向上。

### Point of View

- ① 外来を通さずダイレクトに入院できる糖尿病支援入院
- ② 導入当初は広報に力を入れ、地域に周知を図る
- ③ 2週間プログラムの高度な内容を生かす
- ④ 非専門医も巻き込み、裾野を広げることが大切

順天堂大学医学部附属静岡病院  
糖尿病・内分泌内科准教授

佐藤 文彦先生

望月内科医院院長

望月 健太郎先生

医療法人社団俊幸会境医院院長

境 俊光先生

あそうクリニック院長

麻生 克己先生

### 外来を経ずに ダイレクトに支援入院

駿東田方医療圏、熱海伊東医療圏を含む静岡県東部地区は医師不足が深刻で、糖尿病医療に関しても専門医が少なく、合併症による死亡率も高い状況にある。この地域で活動する糖尿病専門医の先生方（望月先生／2001年開業〈父親からの医院継承〉／沼津市、境先生／2005年開業／駿東郡長泉町、麻生先生／2011年開業／沼津市）は、地域の医療の質向上に意欲的で、地域で10名ほどが力を合わせ、勉強会などを積極的に開催し、日ごろのコミュニケーションも密である。

2012年7月、同じ医療圏にある順

天堂大学医学部附属静岡病院（以下、順天堂静岡病院）糖尿病・内分泌内科准教授に着任した佐藤先生は、同年8月、かかりつけ医の紹介で患者を受け入れる糖尿病教育入院のプログラムを稼働させた（【資料1】）。

同プログラムは、時間的な問題や専門スタッフを確保できないことから、糖尿病患者各々に合わせた検査・講義、食事指導などに支障があるといった悩みを持つかかりつけ医の先生方に向けた地域医療連携プログラムでもある。かかりつけ医はまず、入院日の予約をするため、地域医療連携室に電話をかける。同室から糖尿病・内分泌内科医に予約日程を確認したところで入院が確定する。ついで①診療情報提供書、②保険証、

③糖尿病教育入院情報シート（【資料2】）の3点セットをファクス送信すると、入院日まで患者は一度も順天堂静岡病院の外来受付をすることなく入院できる。火曜日入院、翌々週月曜日退院の日程を終えると、入院サマリーと診療情報提供書をかかりつけ医に郵送する。

治療内容の変更や新規にインスリンが導入された患者については、かかりつけ医の判断により順天堂静岡病院糖尿病・内分泌内科で定期診察するフォローアップも組み込まれている。また、本年9月より入院プログラムの内容はそのままに、名称を「糖尿病支援入院」に変更した。「混み合う外来を経ずにダイレクトに入院できるシステムとしたので、紹

【資料1】

糖尿病支援入院スケジュール表

	／ (火)	／ (水)	／ (木)	／ (金)	／ (土)	／ (日)	／ (月)
AM	入院 診察 身体測定	採血、採尿 体重測定 血糖値 7検	眼科受診 皮膚科受診 (必要な方)	体重測定 教育講義③ フットケア指導 (10:00~10:30)	ビデオ学習	ビデオ学習	体重測定 (腹部超音波)
	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食
PM	入院後、蓄尿開始 教育講義① 合併症について (16:00~17:00)	血糖値 7検 教育講義② 集団栄養指導 (13:30~14:30)	(支援入院カンファ) 病棟回診	個別栄養指導(1) (14:00~15:00) 教育講義④ 糖尿病薬について (16:00~17:00)	ビデオ学習	ビデオ学習	
	／ (火)	／ (水)	／ (木)	／ (金)	／ (土)	／ (日)	／ (月)
AM		体重測定 (腹部CT)		体重測定 血糖値 7検	採血、採尿	ビデオ学習	
	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食	BS 昼食
PM	負荷心電図 教育講義⑤ 糖尿病の検査について (16:30~17:00)	ABI 頸動脈超音波	(支援入院カンファ) 病棟回診	血糖値 7検 個別栄養指導(2) (14:00~15:00)	ビデオ学習	ビデオ学習	総括 (13:00~15:00) 退院

介元の先生方には利用しやすいと好評です。受け入れ体制としては大部屋4床、個室1床を確保しており、完全予約制で、大部屋は男性と女性の患者各1名が毎週入れ替わるローテーションを組んでいます。医療サービスとして非常にニーズの高いものだと考えています」(佐藤先生)

### まず広報のために行動 地域の専門医の心をつかむ

同プログラムは順天堂静岡病院の患者も対象であるが、全利用者に対するかかりつけ医からの紹介患者の占める割合は2012年度17%、2014年度27%と着実に増加している。「佐藤先生は、着任してすぐに医師会の講演会でプログラムの広報をされました。順天堂大学医学部附属順天堂医院や順天堂東京江東高齢者医療センターで糖尿病教育入院の立ち上げを指揮されただけあって内容、趣旨、全体システムともに素晴らしいものでした。何より新しい試みを進

めるにあたって、まず広報に注力する見識はさすがだと思います。私たち糖尿病専門医の反応が早かったのは当然です」(望月先生)

「私たち地域の糖尿病専門医は、常日ごろから顔の見える関係で活動していますが、佐藤先生はそこに足を運び、私たちとの間に顔の見える関係を築いてくださいました。患者さんを送り出す側としては、送った先の先生の顔が見えるのとそうでないのは雲泥の差です。すばらしい行動力だと思います」(境先生)

「実際に、糖尿病支援入院を経て退院してきた患者さんの行動変容には目を見張るものがあります。行動療法の分野に力を入れている佐藤先生の手腕とプログラムの確かさには感銘を覚えます」(麻生先生)

### 開業医の判断が生きる 糖尿病支援入院という選択

プログラムのすぐれた点について麻生先生が語る。

「駿東田方医療圏、熱海伊東医療圏にはほかに糖尿病教育入院を受け入れている病院がありますが、通常その場合は、かかりつけ医が紹介状を持たせて患者さんは病院の外来を受診し、病院の担当医が教育入院の可否を決定します。佐藤先生着任前は、順天堂静岡病院の糖尿病教育入院も同様のシステムでしたが、これは特別なことではなく全国どこでもそれが普通だと思います。

ただこの場合、外来で診察した医師が『入院の必要なし』と判断することもありますし、教育入院の必要はあるけれどもベッドの空きなどの事情で入院ができず外来で治療しなければならない状況になったりすることが実際にあります。糖尿病専門医である私が教育入院をすすめるケースは複数回の管理栄養士による栄養指導、糖尿病療養指導士による療養指導を行ったうえで、多剤の内服治療やインスリン治療によっても血糖コントロールが改善されない方が多く、いったん日常生活と切り離し

糖尿病支援入院情報シート

地域医療連携室 FAX : XXX-XXX-XXXX

一般の紹介状・保険証とともにお送りください。お時間がなければ本用紙のみ、先送くださるようお願いいたします。おわかりになる範囲でけっこうです。

順天堂ID : \_\_\_\_\_ 患者様：ご氏名 \_\_\_\_\_ 様 (生年月日 TSH 年 月 日)

〒 \_\_\_\_\_

身長 cm 体重 kg 罹病期間(推定 年)

★連絡先(重要) 入院約2週間前と前日の月曜日に医事課の入退院受付から患者様に連絡させていただきます。  
日中医連絡可能な電話番号(もっとも確実に連絡がとれる連絡先に○をおつけください)  
平日にお仕事をされている場合は、連絡先が自宅のみではご連絡できない場合がございます。

以下、該当する項目に○をつけてください。

糖尿病網膜症	検査	未	なし	あり	:(詳細: )		
糖尿病腎症	検査	未	なし	あり	:(詳細: )		
糖尿病神経症	検査	未	なし	あり	:(詳細: )		
心疾患	検査	未	なし	あり	:(詳細: )		
脳血管疾患	検査	未	なし	あり	:(詳細: )		
身体機能	(まったく障害ない)	杖歩行	歩行不能)				
運動習慣	(かなりある)	たまに運動:	歩行など		ない)		
社会適応	(保たれている)	保たれていない)					
急性期感染症(結核、細菌感染など)		(ある	ない)				
他疾患(状態と治療)							
1	2	3	4	5	6		
投与薬剤(わかる範囲で)							
1	2	3	4	5	6	7	8

貴医療機関名 : \_\_\_\_\_ FAX : \_\_\_\_\_

ご住所 : \_\_\_\_\_ 担当医先生 氏名 : \_\_\_\_\_

お電話 : \_\_\_\_\_

て入院下で食事、運動を含めて治療方針を見直していただきたい方がほとんどです。そのため、ある程度の期間をかけ、教育入院の必要性について説得し、ようやく入院の決断をした患者さんが『入院の必要なし』と返されると患者さんと紹介医との信頼関係にも影響が出ます。佐藤先生のプログラムは、そうした問題を見事に克服しています」(麻生先生)「入院後に患者さんに初めてお会いし、お人柄などを知るプログラムですから、受け入れ側にはリスクがつきものです。しかし、かかりつけ医の先生方の困難を思えば、できる限

り受け入れていこうという思いで運用しています」(佐藤先生)

医療機関の機能分化を促す役割も担う

同プログラムは、言わば「かかりつけ医中心」のシステムだが、佐藤先生はその点だけで導入、運用しているわけではない。自院を含めた地域の医療事情も考慮している。「どの診療科も、当院の外来は常にキャパシティの限界に近い状態で診察を行っています。速やかに医療機関の機能分化を図り、病院への患者集

中を是正しなければなりません。糖尿病・内分泌内科の場合、その大きな原動力になるのが糖尿病支援入院だと考えています。

本プログラムは当院の外来に負荷をかけません。そして、入院で生活改善の成果があった患者さんは退院後地域に帰り、かかりつけ医の先生のもとで治療に専念できます。地域に患者さんが返っていくこの流れこそ大切と考えます。

糖尿病支援入院を通じて連携をさせていただいている先生方には、現在、外来や通常入院の患者さんのうち、症状の安定した方を積極的に逆紹介し、受け入れていただいています。この流れを地道に少しずつ大きくしていけば、病院への患者集中を中長期的に改善していけると考えます」(佐藤先生)

2週間プログラムは高齢者にも壮年期にも有効

現在、大都市圏で実施されている糖尿病教育入院のプログラムは1週間～10日程度の日程が主流になっている。佐藤先生は1週間プログラムの運用にも十分な経験を持つが、今回はあえて2週間プログラムを採択したと言う。

「対象となる患者さんが高齢者主体であると想定し、2週間プログラムを導入しました。

簡単に言うと、都会の40～50歳代の方は、働き盛りで理解力も高いため2週間のプログラムを嫌います。一方、時間的余裕があり、医学的な知識を身につける時間もかかる患者さんには、このプログラムが合っています。

将来的には1週間プログラムも導入し、2週間プログラムとの併用も必要だと考えています」(佐藤先生)



左から境先生、望月先生、佐藤先生、麻生先生

麻生先生は、2週間プログラムは患者、かかりつけ医双方の要望にかなっていると話します。

「私たち糖尿病専門医が、かかりつけ医として支援入院をすすめるのは、治療効果が芳しくなかったり、療養指導が生活習慣の改善につながらなかったりといった問題を抱えた患者さんです。支援入院を説得し納得していただくのに数ヵ月要するのもしばしばです。したがって、治療についても一筋縄ではいきません。

数日～1週間程度の短期のプログラムだと患者さんのハードルは高くありませんが、治療効果の判定まではできないのが普通だと思います。きちんと治療の問題点を見つけ出し治療方針を再度検討するためには、医療従事者の側からは少なくとも2週間程度の入院期間が必要と考えられますし、実際、2週間の入院でしっかりと血糖コントロールが改善したという結果が出るので、順天堂静岡病院の支援入院を受けていただいた患者さんからは入院して良かったと評価を受けることが多いと感じます」(麻生先生)

「私は、30～40歳代の方も積極的に紹介しています。忙しい社会人ほど日常は糖尿病と向き合う時間がなく

だからこそ集中的に学べる機会が貴重だと思うからです。会社の上司などと話し合えば半年、1年先の入院予定は立てられるでしょう。

また、この糖尿病教育入院は、ご本人の生活習慣の改善はもちろんですが、外来の短い時間では気づかなかった点、聞き出せなかった点を拾い上げ、検査報告書や退院サマリー

に載せてくれます。複眼的に患者さんを見守るという意味でも、意義が大きいプログラムだと思います」(望月先生)

### 非専門医を巻き込み 裾野を広げる努力を

支援入院を通じてかたちが整いつつある糖尿病医療連携の、今後の展望について各先生に意見を聞いた。

「地域の糖尿病医療全体から考えるべきことは、今後、この連携に、非専門医の先生方をいかに巻き込んでいくかだと思います。その仲介役として私たち糖尿病を専門とする実地医家が、医師会での交流などの機会に折に触れて連携について語り続けるべきでしょう」(境先生)

「病院でも、地域でも、専門医だけではできることに限りがあります。境先生がおっしゃるように、非専門医の先生方を巻き込み、裾野を広げていくことで、地域の糖尿病医療のレベルは大きく引き上げられるはずですよ」(望月先生)

「先日、佐藤先生の講演会があったのですが、私の隣に座っていた非専門医の先生が、講演後、私に『佐藤先生に糖尿病の支援入院をお願いする

には具体的にどう手続きをすればいいのですか?』と聞かれるなど、非常に興味を示しておられました。

こうした機会は徐々にではありませんが増えてきており、地域の状況は少しずつ良くなっているように感じます」(麻生先生)

「慣例にしたがって、『教育入院』という用語を用いていましたが、我々はこのようなプログラムは患者さんにとっての支援だと考えています。ですので、今年9月から『支援入院』と呼称を変更しました。プログラムを通して『教育』を受け、成長していくのはむしろメディカルスタッフや医師だと考えます。

将来的には、糖尿病初期段階の患者さんには1週間プログラムも運用し、より広く多くの患者さんを受け入れていきたいと考えています」(佐藤先生)

#### 順天堂大学医学部附属静岡病院

〒410-2295  
静岡県伊豆の国市長岡1129  
TEL : 055-948-3111

#### 望月内科医院

〒410-0822  
静岡県沼津市下香貫宮脇337-29  
TEL : 055-931-5362

#### 医療法人社団俊幸会境医院

〒411-0944  
静岡県駿東郡長泉町竹原397-4  
TEL : 055-975-8021

#### あそうクリニック

〒410-0041  
静岡県沼津市筒井町11-1  
TEL : 055-929-7575